

埼玉県学力・学習状況調査（中学校）

復習シート 第一学年 国語



組

番号

名前

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「来たぞ」と一郎いちろうが思わず下に居る嘉助かすけへ叫さけぼうとしていますと早くも又三郎またさぶろうはどてをぐるっとまわつてどんだん正門に入つて来ると

「お早う」とはつきり云いました。みんなはいつしよにそつちをふり向きましたが一人も返事をしたものがありませんでした。それはみんなは先生にはいつでも「お早うございませう」というように習っていたのでしたがお互に「お早う」なんて云ったことがなかったのに又三郎にそう云われても一郎や嘉助はあんまりにわかで又勢がいいのでとうとう臆（おく）せてしまつて一郎も嘉助も口の中でお早うというかわりににもにやもと云つてしまつたのでした。ところが又三郎の方はべつだんそれを苦にする風もなく二三歩又前へ進むとじつと立つてそのまっ黒な眼でぐるっと運動場じゆうを見まわしました。そしてしばらく誰（だれ）か遊ぶ相手がないかさがしているようでした。けれどもみんなきろきろ又三郎の方は見ていても同じもじしてやはり忙（いそ）がしうに棒（ぼう）かくしをしたり又三郎の方へ行くものがありませんでした。又三郎はちよつと工合（ぐあ）が悪いようにそこにつつ立つていましたが又運動場をもう一度見まわしました。それからぜんたいこの運動場は何間あるかというように正門（せいもん）から玄（げん）関（かん）まで大股（おおまた）に歩数を数えながら歩きはじめました。一郎は急いで鉄棒をはねおりて嘉助とならんで息をこらしてそれを見ていました。

そのうち又三郎は向うの玄關の前まで行つてしまふとこつちへ向いてしばらくあんざん暗算をするように少し首をまげて立つていました。

みんなはやはりきろきろそちを見えています。又三郎は少し困つたように両手をうしろへ組むと向う側の土手の方へ職員室の前を通つて歩きだしました。

(宮沢賢治『風の又三郎』による。)

問

一 又三郎はちよつと工合が悪いようにそにつつ立っていました。とありますが、又三郎は周りのどのような様子から工合が悪いように感じたのですか。次の空欄にあてはまる内容を三十文字以上、四十文字以内で書きなさい。

レベル 8

レベル 8

又三郎が運動場で

30

40

様子。